

政務活動費活動報告（視察）「第35回北方領土視察団」

(1) 出席者（会派名・個人名）

公明党 上杉 正敏

(2) 実施日：平成29年10月24日（火）～10月27日（金）

【1. 調査の目的】

(1) 本市における現状

一日も早くわが日本国に北方領土が返還されることを願い毎年実施されている北方領土視察団に代表として1名が参加している。

(2) 本市における課題

毎年1名の代表のみが参加しているが、もっと多くの議員が参加し北方領土返還の意識高揚を高める。

【2. 調査地選定理由】

(1) 調査項目

今だ返還がされていない北方領土の現状を把握し、今後の国を挙げての返還運動に役立てることを目的とする。

(2) 選定地1：

北海道根室市

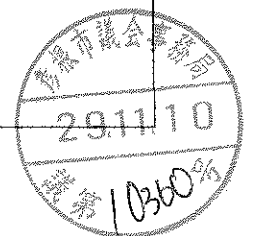
選定地2：

北海道庁

【3. 調査結果】

(1) 内容

- 10月24日（火） ・根室市長表敬訪問
・根室市民との交流会
- 10月25日（水） ・北方館訪問（根室市 納沙布岬）
・北方四島交流センターで元島民の講話聴取
・根室海上保安部視察
- 10月26日（木） ・洋上からの国後島視察
・北海道開拓の村訪問
- 10月27日（金） ・北海道庁訪問（北方領土についての現状説明及び質疑・応答）



(2) 考察

今回、初めて北方領土視察団として参加させてもらって一番に感じたことは、沖縄返還の時に日本国民が喜び合った気持ちが、北方領土返還に対し希薄になってきているのではと感じた。

初日の24日では、滋賀県庁で奥村芳正滋賀県民会議会長を団長とした、「第35回北方領土視察団」30名の出発式が行われ、北海道根室市に向けて出発した。根室市では北方領土返還要求運動滋賀県民会議との交流会を開催して頂き、平成29年度北方青少年少女交流事業として滋賀県に来ていただいた生徒さんも参加してもらい有意義な語らいの場となった。

交流会では、根室市副市長の石垣雅敏氏からの歓迎の挨拶があり、地元の生徒さんから北方領土は日本の固有の領土ではあるが、現実にはロシアの方が暮らしているので、返還要求だけでなく共に暮らしていける事を考える必要があるのではとの意見が出てきていることを紹介され、時代の流れを感じた。

2日目の25日は、北方四島交流センターを訪問して、館長の佐田正蔵氏から館内の展示物の説明を受けたのち、千島歯舞諸島居住者連盟副理事長の河田弘登志氏から元島民だったころの様子を語られた。納沙布岬から一番近い島までわずか3.7kmしかなく根室の漁民が沖で昆布やうに漁をするのに漁船1隻あたり40万円もロシア政府に支払っていることを聞き漠然とした。

河田氏からは、戦後ロシアの兵隊が島に攻め込み家族がバラバラに引きちぎられ食べるものもままならない日々を過ごされたこと語られた。これらのこと淡々と語っていただいた事に、我々も、もっと北方領土返還に対する意識を高めていかねばと感じた。

その日の午後、根室海上保安部を訪問し国境警備に365日絶えず任務してもらっている乗組員の皆様に敬意を述べた。

3日目の26日は、洋上から国後島を視察した。天気は良かったのだが霞で国後島は見えなかった。しかし、港から数キロしか離れていないところが、現在の航海域を体験でき改めて国境に対するふがいさを知った。午後からは、札幌に移動し北海道開拓の村を訪れた。この村は、明治から昭和初期にかけて北海道の開拓に建てられた建築物を当時のまま復元し展示されていた。展示物からは、当時の生活の様子が伺え極寒の大地で生活されたたくましさも感じられた。

4日目の27日は、北海道庁を訪問し、北方領土返還に対する取り組みを聞かせていただいた。北方領土に対する国民世論の声や啓発運動、平和条約締結問題が解決されるまでの間における、ビザなし交流事業や元島民に対する救護、人道的支援、日露の共同経済活動等に対し意見交換があった。

今回の北方領土視察に参加して強く感じたのは、もっと日本国民が北方領土の現状を理解し一日も早く返還されるよう日本政府に働きかけることである。